



令和 5 (2023) 年 8 月 30 日

令和 4 年度一般会計決算見込みについて

令和 4 年度の猪名川町一般会計の決算見込みは、歳入で 120 億 3,087 万 1 千円、歳出で 116 億 8,497 万円となり、前年度と比較して、歳入は 7.6%、歳出は 7.2%、それぞれ減少しました。

歳入決算額から歳出決算額を差し引いた歳入歳出差引額は 3 億 4,590 万 1 千円、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は 2 億 9,487 万円となりました。

【令和 4 年度一般会計決算収支の状況】

(単位：千円)

区 分	決 算 額
歳入総額 (A)	12,030,871
歳出総額 (B)	11,684,970
歳入歳出差引 (C = A - B)	345,901
翌年度に繰り越すべき財源 (D)	51,030
実質収支 (C - D)	294,870

※ 表示単位未満四捨五入の関係で、差引金額が一致しない箇所があります。

【歳入の概要】

町税は、産業拠点地区における新築家屋の課税などにより前年度から 18.2% 増加、財産収入では、町有地の売却などにより前年度から 196.6%増加しました。

一方、地方交付税は、町税の増加などに伴う普通交付税の減少により前年度から 13.6%減少しました。また、国庫支出金は、子育て世帯臨時特別給付金の給付額の減少などに伴い、前年度から 18.9%減少しました。町債は、臨時財政対策債借入額の大幅な減少などから 54.8%減少となりました。

【歳出の概要】

物件費は、光熱費上昇やキャッシュレスポイント還元事業の実施などにより、前年度から 8.5%増加しました。また、補助費等は、水道料金減免事業において、一般会計から水道事業会計へ減収補填分として補助金を支出したことなどから 9.1%増加しました。

一方、積立金は、財政調整基金の積立額の減少などにより、前年度から 65.2%減少しました。

【その他】

- ・ 地方債残高は 84 億 2,979 万 7 千円で、前年度から 3 億 7447 万 2 千円減少。
- ・ 基金残高は 40 億 3,885 万 3 千円で、前年度から 1,402 万 5 千円増加。
- ・ 経常収支比率は、町税収入の増加以上に普通交付税および臨時財政対策債借入額において大幅な減少があり、経常一般財源が減少した一方、光熱費の上昇やコロナ禍で開催を控えていた各イベントの再開などにより経常経費充

当一般財源が増加したため、6.8ポイント増加しました。

- ・ 実質公債費比率は、対前年度 0.2ポイント減の 2.8%となりました。一般会計等が将来負担すべき実質的な負債額と比べ、充当できる基金等の財源が多いことから、将来負担比率は発生しない状況となっています。

【問合せ】

企画総務部総務課 担当 肥爪^{ひづめ} (TEL 072-766-8708)